

株主メモ

決 算 期	2月20日(年1回)
基 準 日	2月20日 (そのほか必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。)
定 時 株 主 総 会	5月(ただし20日までに開催)
1単元の株式の数	100株
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞 第92期から日本経済新聞の決算公告に代えて、貸借対照表ならびに 損益計算書を当社のホームページに掲載しております。 http://www.aeon-mall.net/ir/
名 義 書 換 代 理 人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
(郵便物送付先) (電話お問い合わせ先)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

【お問い合わせ先】	イオンモール株式会社 経営企画部IRグループ 〒261-8539 千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1 TEL. 043-212-6733 E-mail amirdept@aeon-mall.net ホームページ http://www.aeon-mall.net
-----------	---

※表紙写真はイオンりんくう泉南ショッピングセンター(2004年11月開店)



第94期
事業報告書

2004.2.21～2005.2.20

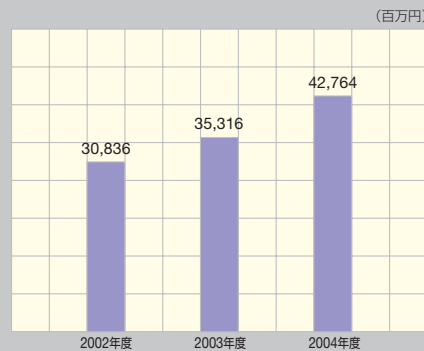


イオンモール株式会社

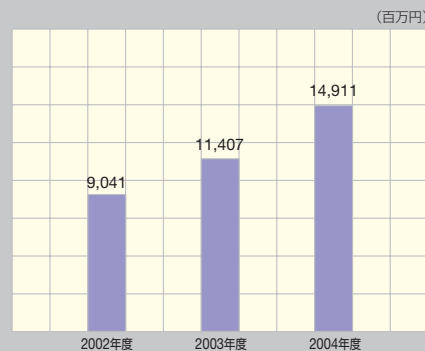
2004年度（2005年2月期）決算ハイライト

16期連続で増収増益となりました

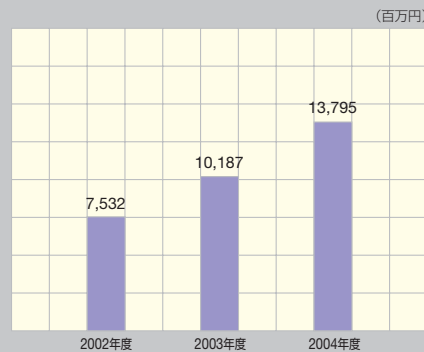
営業収益 前期比 **21% up**



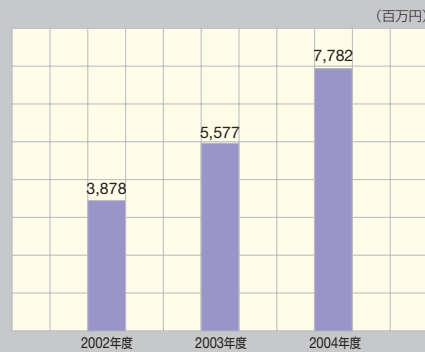
営業利益 前期比 **31% up**



経常利益 前期比 **35% up**



当期純利益 前期比 **40% up**



当社では、SCに出店する専門店からの賃料収入の75%以上が売上に連動する歩合制であるため、各専門店の売上が当社の収益増につながる仕組みとなっています。出店店舗の売上向上に向け、当期も引き続き専門店の経営・営業サポートに努めました。こうした取り組みによって既存14ショッピングセンター（SC）で前期を上回る収益を実現しました。さらに前期にオープンした2SCの年間寄与、当期にオープンした2SCの好調な滑り出しにより、営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益とも2桁の伸びを達成しました。SC事業開始以来、16期連続の増収増益です。

ごあいさつ

地域に貢献するSCづくりで、株主価値をさらに高めていきます

当社は、お客さまのニーズに対応した地域1番の競争力を持つショッピングセンター（SC）づくりを推し進め、2004年度も計画を上回る業績を達成しました。1989年のディベロッパー事業開始以来、順調に成長を続けており、16期連続の増収増益、6期連続で前期比2桁増の増収増益となります。

今後の経営環境を考えると、個人消費の動向は依然として先行き不透明な状況が続く、お客さまによる商品の選別化、商業施設の選別化が強まってくると予想されます。SC業界では、外資・異業種の参入に加え、大手小売業のSC開発の加速、百貨店のSC出店の動きにも見られるように、業種・業態を超えた競争時代へと変化しています。

当社ではSC開発にあたり、街づくりの観点から、SCが都市計画の中でどのような機能を分担し、どのような役割を果たすべきかを提案し、地域社会と一体となった開発・運営を行ってきました。このような「街づくり」型のSC開発は、雇用増や税収増なども含め、地域活性化に貢献する事業として高い評価をいただいています。また、専門店の皆さまが選ぶディベロッパー大賞においては、2005年に新設された「街づくり賞」に選ばれました。これまでも、CS（顧客満足）活動や地域貢献に視点を置いたSCづくりが評価され、ディベロッパー大賞特別賞などに選ばれており、今回で5年連続での受賞となります。今後もSC開発力をさらに強化し、地域との共生を軸とした「街づくり」型SC開発を推し進め、株主の皆さまにとってより魅力的な企業となるよう努めていきます。

当社では、成長のための設備投資に向けた内部留保の充実に努めながら安定した継続配当を行うことを、利益配分の基本方針としています。日頃よりの感謝の気持ちを表したく、当期の年間配当金を25円から30円に増配させていただきます。また、2005年2月20日時点で株式を所有する皆さまに、1株に対し2株となる株式分割を実施させていただきます。



代表取締役社長 川戸義晴

関西に初めて当社のショッピングセンターがオープンしました

2004年11月にオープンしたイオンりんくう泉南ショッピングセンターは、当社にとって関西初出店のSCです。「驚きのスケール、イオン登場」をコンセプトに、泉州地域最大級の施設と地域初出店のお店を多く取り入れた専門店構成で、地域のお客さまの暮らしの中心的存在となることを目指しています。

当SCは、大阪市と和歌山市を結ぶ国道26号線が近くを走り、阪和自動車道、阪神高速湾岸線へのアクセスも容易と、交通条件に恵まれています。こうした好立地により、大阪方面は岸和田市、堺市から、和歌山方面は和歌山市からもご来店いただいております。1カ月平均100万人以上のお客さまにご利用いただいております。



当社のSCは郊外にあり、車でのご来店を前提としているため、大型の無料駐車場を備えています。イオンりんくう泉南SCでは、約4,300台が収容可能となっています。

吹き抜けの高さ18m、1階通路幅8mという広々としたSC内には、天井から太陽の日差しが差し込み、心地よい空間をお客さまに提供しています。



Rinku-Sennan SC



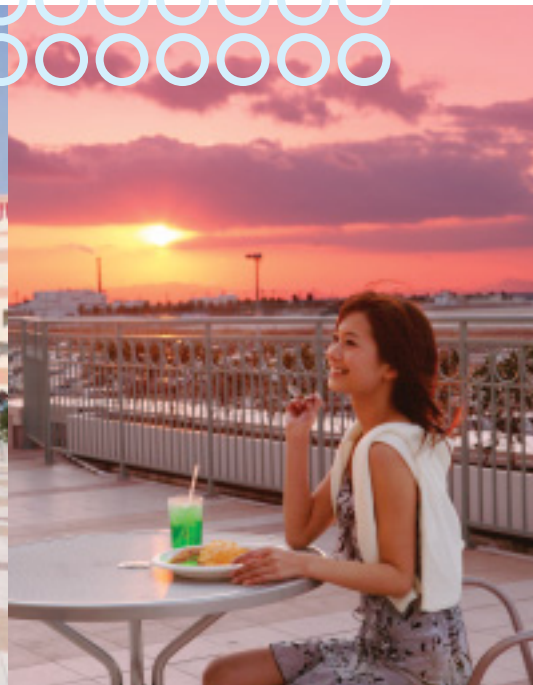
関西国際空港を臨むビジネスタウン

イオンりんくう泉南SCは、関西国際空港から南東4kmに位置する「りんくうタウン」(大阪府泉南市)に立地。「りんくうタウン」は大阪府が関西国際空港と密接な連携を図り、国際ビジネス・交流拠点として整備を進めているビジネスタウンです。当SCは大阪府から誘致をうけて出店したもので、これからの発展を目指す地域の中心的役割が期待されています。



全長453mのショッピングセンター

453mの建物の正面左側に核店舗「ジャスコ」、右側には1階にスポーツ専門店「スポーツオーソリティ」「上新電機」、2階にシネマコンプレックス「ワーナー・マイカル・シネマズ」などの大型専門店を配置。左右を結ぶ252mのモールの両側には、多様な専門店が並んでいます。



フードコートのテラス(144席)から一望できるサザンビーチの夕陽は「日本夕陽百選」に認定されています。

いろいろなニーズに応える170の専門店

バラエティに富んだ専門店の中でも、とりわけ充実しているのが飲食機能。こだわりのレストラン21店、フードコートには841席を準備し、味にうるさい関西のお客さまをお迎えしています。また、170店のうち約半分の82店が泉州地域に初めて出店するお店。ここに来れば何か新しい発見がある——そんな新鮮な楽しみを提案し、お客さまにとって1番お気に入りのSCとなることを目指しています。

エンターテインメント・カルチャー



シネマコンプレックス、ファーストフードを融合したアミューズメントゾーンをはじめ、カルチャースクール、英会話教室、幼児教室などが入居しています。

飲食



当社最大規模の145mにわたるレストラン街には、21店が出店。全国的に著名なレストラン16店が泉州地域で初めてお店を構えています。フードコートも当社最大の16店・841席で構成されています。

トレンドファッション

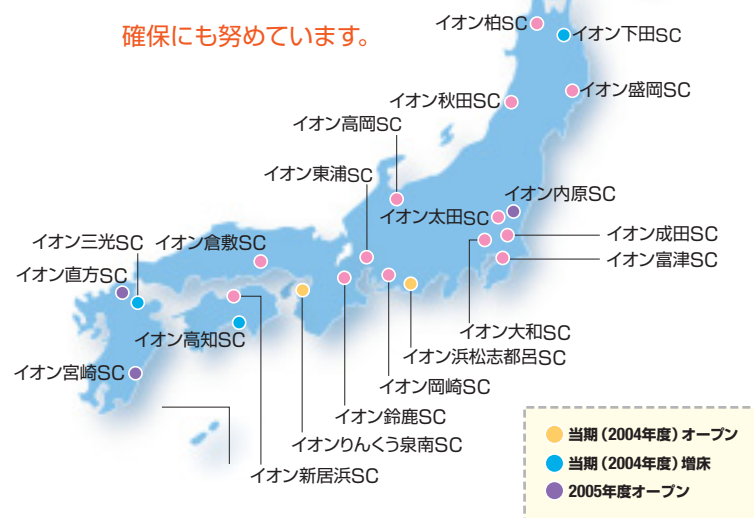


人気ブランドからデیلیーカジュアルまで、さまざまな生活シーンに対応する幅広いラインアップとなっています。

世界トップテンを目指して

1992年に第1号店としてイオン柏SCをオープンして以来、日本各地で着実に事業を広げ、2004年度末現在で18のSC（総商業施設面積102万m²）を運営しています。当社では、コストに新規SCをオープンしていく一方で、既存のSCでは増床やリニューアルを通して新しい専門店を導入。常に新鮮なSCであり続ける施策を行っています。2004年度は2SCをオープン、3SCで増床を行いました。

当社の長期目標は、2012年までに50SC体制を確立し、SC専門ディベロッパーとして世界のトップテン入りを果たすことです。この目標達成に向け、マーケット、交通アクセス、敷地面積などの観点で地域No.1となる出店候補地の確保にも努めています。



New Open

イオン浜松志都呂ショッピングセンター

浜名湖の東側に建つ、静岡県最大の商業施設。
3フロアに150店が出店しています。



イオンりんくう泉南ショッピングセンター

大阪府と和歌山県の県境近くの大阪湾沿いに
出店。2フロア構成で170店が出店しています。



2004年度 の増床

イオン下田 ショッピングセンター

1995年オープン。2004年4月に3回目
の増床を行い、15店を新規に導入しま
した。



イオン高知 ショッピングセンター

2000年オープン。2004年7月に高知県
で初めてのシネマコンプレックスを併
設しました。



イオン三光 ショッピングセンター

1996年オープン。2004年9月に2回目
の増床を行い、ケーズデンキと家具の
アウトレットを導入しました。



2005年度 オープン

2005年4月8日開店

イオン直方ショッピングセンター （福岡県直方市）



規模	敷地面積	88,200m ²
	商業施設面積	62,727m ²
駐車台数	3,424台	
商圏人口	車30分圏内で約36万人（約14万世帯）	

2005年5月19日開店

イオン宮崎 ショッピングセンター （宮崎県宮崎市）



規模	敷地面積	190,669m ²
	商業施設面積	77,355m ²
駐車台数	4,070台	
商圏人口	車30分圏内で約38万人（約14万世帯）	

2005年秋開店予定

イオン内原 ショッピングセンター （茨城県水戸市）



規模（計画）	敷地面積	122,000m ²
	商業施設面積	73,400m ²
駐車台数	約3,800台	
商圏人口	車30分圏内で約40万人（約14万世帯）	

当社の事業展開に関するご質問にお答えします

Q

SCをオープンさせる資金は
どう調達していますか

事業で得たキャッシュ・フローと出店者からお預かりする敷金・保証金を手元資金としていますが、建物所有・借地方式を基本に開発することで、初期投資を抑制しています。

強固な財務体質を築くため、現在、有利子負債の削減に取り組んでおり、資産の流動化による資金の調達も行っています。2004年度はイオン大和SCの土地などを売却し、111億円を調達しました。資産の流動化は固定資産の膨張を抑えることにもなり、リスク回避につながります。資産流動化を行った場合のメリット・デメリットを睨みながら、実施していきます。

また、2005年4月にオープンしたイオン直方SCでは建物もリースで運営する方式で開発を行いました。



イオン浜松志都呂SC (2004年8月開店)

Q

中期的な経営目標があれば
教えてください

当社では毎年、今後3年間の計画を立てて経営を行っています。2004年度にスタートした中期計画では、最終年度である2006年度(2007年2月期)に当期純利益100億円を目標としていましたが、2005年度の当期純利益は94億円を見込んでおり、2006年度には目標以上の利益を確保できる見通しです。新たに策定した2005年度からの3カ年計画では、2007年度(2008年2月期)に営業収益700億円以上、当期純利益130億円以上、ROA(総資産当期純利益率)5.0%以上の実現を目指しています。

Q

新しい事業に
取り組む予定はありますか

当社では、新規事業として、資産を持たず、これまでに培ったノウハウを収益とする新たなビジネスに取り組み、前期(2003年度)に、台湾で商業施設の建設管理業務援助に関する契約を2物件締結しています。そのうちのひとつ「グローバルモールSC」(中和市)では運営管理業務に関するコンサルティング契約も締結しました。同SCは2005年12月のオープンに向け、現在、建設が進んでいます。もうひとつの「歌林SC」(新莊市)では、運営管理業務のコンサルティング契約に向けた準備を進めています。



グローバルモールSC

Q

保険代理店事業の動向は
どうなっていますか

保険代理店業界では、保険会社による代理店の選別、統廃合が加速しています。また、銀行窓口や証券窓口における損保商品販売も拡大し、保険商品販売の競争はますます激しくなっています。こうした中、当社では個人のお客さまに対する販売チャネルの拡大を進めています。その一環として2004年度もSCでの保険販売カウンターを前期の7カ所

から16カ所へと倍増させました。

当社ではSC事業、保険代理店事業を通じて、約200万件以上のお客さまの個人情報をお預かりしています。こうした情報の保護、管理体制を一層強化し、プライバシーマークの認証取得にも取り組んでいます。



SC内の保険販売カウンター

地域と共生するSCを目指し、 さまざまな活動に取り組んでいます

Community action 1 エコモールにチャレンジ



イオンモールの目標は、ゼロ・エミッションSC。専門店の従業員やお客さまにご協力いただきながらゴミのリサイクルを進めており、2004年度のリサイクル率は前年の61.3%から63.7%に向上しました。省資源、省エネルギーにも取り組み、リサイクル率100%を目指して排出物を出さないSCづくりを進めています。また、廃タイヤを再生利用したボールやタイヤ止め、間伐材を利用したベンチや外装材など、リサイクル資材や機材をSCに導入。さらには、クリーンエネルギーの活用も視野に入れています。

地域の皆さまとともに、その地域に自生する樹木の苗木をSCの敷地内に植樹する「イオン ふるさとの森づくり」活動を行っています。さらにイオン太田SCでは、調整池を活用した「ビオトープ」を敷地内につくりました。ビオトープとは、多様な動植物が生息・生育する空間を意味するドイツ語の造語。本来は自然環境そのものがビオトープなのですが、人間によって復元された自然環境も意味します。



自然環境の再生

Community action 2



イオンモールの目標は、ゼロ・エミッションSC。専門店の従業員やお客さまにご協力いただきながらゴミのリサイクルを進めており、2004年度のリサイクル率は前年の61.3%から63.7%に向上しました。省資源、省エネルギーにも取り組み、リサイクル率100%を目指して排出物を出さないSCづくりを進めています。また、廃タイヤを再生利用したボールやタイヤ止め、間伐材を利用したベンチや外装材など、リサイクル資材や機材をSCに導入。さらには、クリーンエネルギーの活用も視野に入れています。

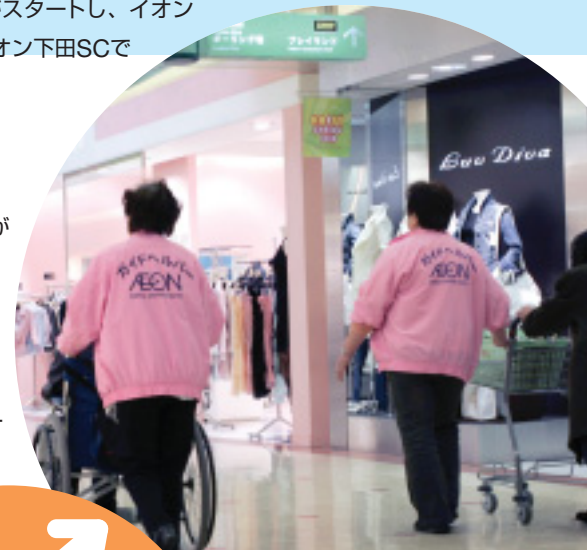
SCで確定申告 community action 3



「SCは地域のコミュニティ施設である」と考える当社では、すべてのSCに多目的ホール「イオンホール」を設け、個人やサークルなどの活動や発表の場として地域の皆さまに開放しています。イオン太田SCでは2004年から2年連続で、イオン倉敷SCでは2005年に、イオンホールが確定申告会場として活用されました。また、イオン倉敷SC、イオン東浦SC、イオン太田SCには、住民票や各種証明書の発行、各種届出に対応する行政サービスの出張所があります。2005年4月から、イオン柏SCでも行政サービスがスタートし、イオン直方SC、イオン宮崎SCでも開設を予定。イオン下田SCでも導入に向け準備を進めています。

イオン下田SCには、介護施設「でてこいセンターふおれすと」が入居。利用者はSCの中でショッピング、映画観賞、食事、ボウリング、イベントなどを楽しんでいます。いわばSC全体がデイサービスセンターとして活用されているわけですが、同SCがバリアフリーだからこそ可能となっている取り組みなのです。当社ではバリアフリーの発想でSCを開発しており、多くの施設で「ハートビル法」や各自治体が決める福祉条例などの適用を受けています。

Community action 4 SCが デイサービスセンターに



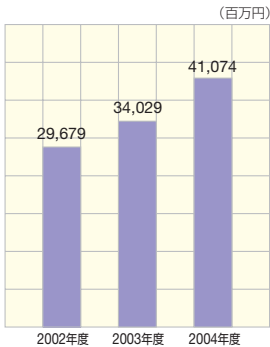
すべてのSCで車イスのお客さまがスムーズに乗り降りできる専用の駐車場をご用意。駐車場の位置がわかりやすい工夫も施しています。

2004年度（2005年2月期）決算のご報告

SC事業、保険代理店事業とも着実に業績を伸ばし、連結の営業収益は前期比21.1%増の427億円となりました。利益につきましては、計画以上の収益増により、営業利益が30.7%増の149億円、経常利益は35.4%増の137億円、当期純利益は39.5%増の77億円と、いずれも営業収益の伸びを上回る増益となりました。

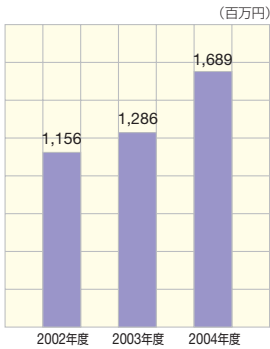
SC事業

既存の3SCで増床を実施し、その他のSCでも新たな専門店の導入やイベントなど、集客力の強化に努めた結果、既存14SCの専門店売上は前期比4.3%増となりました。また、2004年8月にオープンしたイオン浜松志都呂SC、11月にオープンしたイオンりんくう泉南SC、前期にオープンしたイオン盛岡SC、イオン太田SCはいずれも当初計画を上回って推移し、収益の拡大に貢献。SC事業の営業収益は前期比20.7%増の410億円となりました。



保険代理店事業

個人分野の強化に取り組み、がん・医療保険、年金保険の販売が順調に拡大。SCにおける保険販売カウンターを前期の7カ所から16カ所に増やし、SCに来店するお客さまへの販売を進めました。法人分野では、高保証・低コスト商品、新たな事業リスクに対応した商品の拡充を図り、提案型の営業を積極的に推進。(株)マイカルの保険代理店子会社から営業を譲り受けたこともあり、保険代理店事業の営業収益は前期比31.3%増の16億円となりました。



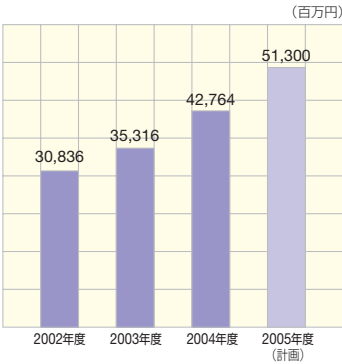
連結損益計算書（要旨）

	前 期 自2003年2月21日 至2004年2月20日	当 期 自2004年2月21日 至2005年2月20日
営業収益	35,316	42,764
不動産賃貸収益	34,008	41,074
保険代理店手数料	1,286	1,689
商品売上高	20	—
営業原価	20,504	23,990
営業総利益	14,811	18,773
販売費及び一般管理費	3,404	3,862
営業利益	11,407	14,911
営業外収益	343	293
営業外費用	1,563	1,409
経常利益	10,187	13,795
特別利益	24	141
特別損失	474	408
税金等調整前当期純利益	9,737	13,529
法人税、住民税及び事業税	4,418	5,481
法人税等調整額	△ 307	227
少数株主利益	49	38
当期純利益	5,577	7,782

2005年度（2006年2月期）の見通し

営業収益	51,300百万円
経常利益	16,000百万円
当期純利益	9,400百万円
1株当たり 当期純利益	155.93円

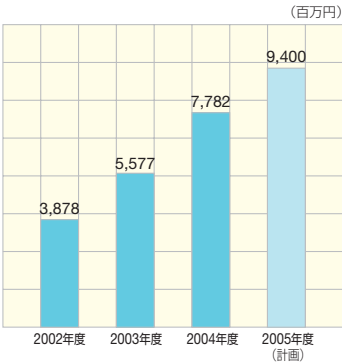
営業収益



経常利益



当期純利益



連結貸借対照表(要旨)

	(単位：百万円)	
	前 期 2004年2月20日現在	当 期 2005年2月20日現在
<資産の部>		
流動資産	10,760	10,727
固定資産	156,038	180,528
有形固定資産	140,273	162,858
無形固定資産	327	789
投資その他の資産	15,437	16,880
資産合計	166,799	191,255
<負債の部>		
流動負債	36,723	49,827
固定負債	97,645	101,868
負債合計	134,368	151,696
少数株主持分	183	215
<資本の部>		
資本金	7,796	7,796
資本剰余金	7,165	7,165
利益剰余金	16,734	23,728
その他有価証券評価差額金	560	667
自己株式	△ 9	△ 13
資本合計	32,247	39,343
負債、少数株主持分及び資本合計	166,799	191,255

財産の動き

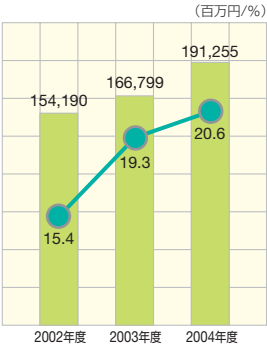
総資産は、新規SCの開店、既存SCの増床・リニューアル、2005年度開店予定SCの土地取得などにより前期に比べ244億円増の1,912億円となり、ROA（総資産当期純利益率）は3.5%から4.3%へと向上しました。

有利子負債は前期に比べ64億円減少し、総

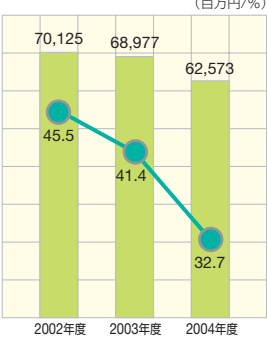
資産に占める有利子負債の割合は前期の41.4%から32.7%となっています。

株主資本は大幅な利益増により70億円増の393億円に、株主資本比率は19.3%から20.6%となりました。

総資産／株主資本比率



有利子負債／対総資産比率



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	(単位：百万円)	
	前 期 自2003年2月21日 至2004年2月20日	当 期 自2004年2月21日 至2005年2月20日
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,288	22,539
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 14,969	△ 17,033
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,669	△ 7,164
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△ 11	△ 1,658
現金及び現金同等物の期首残高	6,142	6,130
現金及び現金同等物の期末残高	6,130	4,472

連結剰余金計算書(要旨)

	(単位：百万円)	
	前 期 自2003年2月21日 至2004年2月20日	当 期 自2004年2月21日 至2005年2月20日
<資本剰余金の部>		
資本剰余金期首残高	5,434	7,165
資本剰余金増加高		
新株式発行増資による増加	1,731	—
資本剰余金期末残高	7,165	7,165
<利益剰余金の部>		
利益剰余金期首残高	11,786	16,734
利益剰余金増加高	5,577	7,782
利益剰余金減少高	629	788
配当金	593	750
役員賞与	35	38
利益剰余金期末残高	16,734	23,728

キャッシュ・フローの状況

好調な業績と専門店売上預かり金の増加を受け、営業活動によるキャッシュ・フローは前期に比べ92億円増加し225億円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、新規SCの開店、既存SCの増床で有形固定資産290億円を取得する一方、イオン大和SCの

土地など有形固定資産の売却による111億円の収入があり、前期に比べ20億円支出増の170億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済を進め71億円の支出となりました。(前期は公募増資を行ったため、16億円の収入。)

損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

	前 期 自2003年2月21日 至2004年2月20日	当 期 自2004年2月21日 至2005年2月20日
営業収益	35,600	43,052
不動産賃貸収益	34,293	41,362
保険代理店手数料	1,286	1,689
商品売上高	20	—
営業原価	21,161	24,708
営業総利益	14,438	18,343
販売費及び一般管理費	3,375	3,840
営業利益	11,063	14,503
営業外収益	356	310
営業外費用	1,501	1,352
経常利益	9,918	13,461
特別利益	29	141
特別損失	474	276
税引前当期純利益	9,472	13,326
法人税、住民税及び事業税	4,306	5,407
法人税等調整額	△ 312	211
当期純利益	5,478	7,707
前期繰越利益	1,094	1,910
当期末処分利益	6,573	9,617

利益処分

(単位：百万円)

	前 期 自2003年2月21日 至2004年2月20日	当 期 自2004年2月21日 至2005年2月20日
当期末処分利益	6,573	9,617
任意積立金取崩額	100	214
固定資産圧縮積立金取崩額	7	85
特別償却準備金取崩額	92	129
合 計	6,673	9,832
<利益処分額>		
配当金	750	900
役員賞与金	38	44
任意積立金		
特別償却準備金	174	207
別途積立金	3,800	6,000
次期繰越利益	1,910	2,681

貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

	前 期 2004年2月20日現在	当 期 2005年2月20日現在
<資産の部>		
流動資産	10,311	10,484
固定資産	153,772	178,254
有形固定資産	135,939	158,037
無形固定資産	312	776
投資その他の資産	17,520	19,440
資産合計	164,083	188,739
<負債の部>		
流動負債	36,439	49,537
固定負債	95,612	100,149
負債合計	132,051	149,686
<資本の部>		
資本金	7,796	7,796
資本剰余金	7,165	7,165
利益剰余金	16,518	23,437
その他有価証券評価差額金	560	667
自己株式	△ 9	△ 13
資本合計	32,031	39,052
負債・資本合計	164,083	188,739

会社・株式データ

会社概要（2005年2月20日現在）

社 名	イオンモール株式会社
英文社名	AEON Mall Co., Ltd.
設 立	1911（明治44）年11月
資本金	77億96百万円
本社所在地	千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1
従業員数	419名

取締役及び監査役（2005年5月13日現在）

代表取締役社長	川戸義晴	
常務取締役	岡崎隆夫	管理本部長
常務取締役	羽間和彦	SC営業本部長
常務取締役	田中 稔	SC開発本部長
取締役相談役	岡田元也	イオン(株)取締役兼代表執行役社長
取締役	三浦政次	経営企画部長
取締役	平林秀博	開発部長
取締役	吉村 惇	建設部長
取締役	西尾徹二	SC運営部長
取締役	敷中 博	活性化推進部長
取締役	小西幸夫	テナント開発部長
取締役	瀧澤一郎	保険事業本部長
取締役	木村洋一	
常勤監査役	横井 賢	
監査役	前田邦彦	(株)日宝業務センター代表取締役社長
監査役	石垣富士夫	
監査役	若林秀樹	イオン(株)経経本部財務部長

株式の状況（2005年2月20日現在）

会社が発行する株式の総数	80,000,000株
発行済株式の総数	30,005,616株（※）
株主数	4,403名

※2005年2月20日を基準日として、4月11日付で普通株式1株を2株に分割しました。分割後の発行済株式総数は60,011,232株となります。

大株主（上位10名）	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
イオン株式会社	16,076	53.62
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,358	4.53
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,181	3.94
ザ バンク オブ ニューヨーク トリーティー ジャスデック アカウント	606	2.02
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・ インターナショナル・リミテッド	563	1.88
農林中央金庫	481	1.60
東京海上日動火災保険株式会社	419	1.40
第一生命保険相互会社	379	1.26
みずほ信託銀行株式会社	359	1.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井アセット信託銀行再信託分・CMTBエク イティンベストメンツ株式会社信託口)	359	1.20

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しています。
2. 議決権比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。